

令和3年度第1回福祉のまちづくり推進協議会 議事録

日時 令和3年7月29日(木) 10:00~11:30

場所 ときわ会館 5階 大ホール

配布資料

令和3年度第1回さいたま市福祉のまちづくり推進協議会 次第

令和3年度第1回さいたま市福祉のまちづくり推進協議会 席次表

さいたま市福祉のまちづくり推進協議会 委員名簿

資料1-1 さいたま市バリアフリー専門部会について

資料1-2 特定事業計画の定量的な評価結果

資料1-3 さいたま市バリアフリー基本構想の改定概要について

資料1-4 バリアフリー基本構想改定版(案)【概要版】

資料2 福祉のまちづくりモデル地区推進部会について

資料3 車いす利用者用駐車施設の青色塗装について

資料4 心のバリアフリー促進啓発事業について

参考資料 さいたま市福祉のまちづくり推進協議会について

出席委員(敬称略・五十音順)

池田 哲郎	さいたま市建設局建築部
稲垣 具志	中央大学 研究開発機構
納 美恵子	さいたま市老人クラブ連合会
木口 幸夫	公募委員
小島 文郎	さいたま市建設局土木部

作山 康	芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科
篠崎 靖夫	さいたま市都市局都市計画部
関根 肇	一般社団法人 埼玉県バス協会
田中 一	NPO法人 埼玉県障害者協議会
中津原 努	NPO法人 都市づくりNPOさいたま
永島 淳	さいたま市保健福祉局福祉部
西澤 正夫	さいたま市保健福祉局長寿応援部
野口 祐子	日本工業大学 建築学部 建築学科 生活環境デザインコース
橋本 健二	一般社団法人 埼玉県建築士事務所協会
宮澤 厚志	特定非営利活動法人 ライフアシスト Familish
宮澤 三夫	NPO法人 さいたま市視覚障害者福祉協会
村山 知之	東武鉄道株式会社 鉄道事業本部 施設部 建築土木課
八島 健	さいたま商工会議所 総務・会員サービス部
山口 明子	一般社団法人 さいたま市手をつなぐ育成会
吉田 江里	公募委員

代理出席者（敬称略・五十音順）

小林 寛和	埼玉県警察本部 交通部 交通規制課
平 哲治	国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所

傍聴人

0人

【内容】

1 開会

2 報告事項

(1) バリアフリー専門部会について

事務局 資料1-1 さいたま市バリアフリー専門部会について、資料1-2 特定事業計画の定量的な評価結果、資料1-3 さいたま市バリアフリー基本構想の改定概要について、資料1-4 バリアフリー基本構想改定版(案)【概要版】の説明(省略)

(2) モデル地区推進部会について

事務局 資料2 福祉のまちづくりモデル地区推進部会についての説明(省略)

(3) 車いす利用者用駐車施設の青色塗装について

事務局 資料3 車いす利用者用駐車施設の青色塗装についての説明(省略)

野口委員 青色塗装ですが民間事業者はどのくらいの数を実施しているのか。啓発としては、ポスターを貼るくらいでは、理解いただけないのではと思うのですが、何か対策等は考えがありますか。

事務局 民間事業者の実施状況は把握できておりません。さいたま市では、ポスターとチラシ・ティッシュによる周知啓発を行っているところです。これについて、理解に結び付きづらいとのご意見ですが、今のところでは、その他対策の実施というのとは、

ございません。自治体により、パーキングパーミット制度という、駐車区画の利用が必要な方に利用証を発行するといった制度を聞いております。他自治体の動向を注視した上で、本市の取り組みについて考えてまいります。

作山会長 高齢化率が高くなるにつれて、高齢者も障害を持つ方も多くなる。同時にニーズが増え、マナーの問題が出てくる。民間施設だとICチップを用いて、ゲートを設けたりしている。ICチップ等がもう少し安くなると、カードを発行し指定席のランプの色が変わるとか、そういう次の時代がくるといいと思います。

稲垣委員 今の話は基本的には性善説でして、啓発することによって、利用対象でない人が気づいて利用しなくなるということですが、これがさいたま市にとって有

効かどうか事実確認をした方が良いと思います。大変かもしれないが、どれくらい利用対象でない人の駐車があって、その人達にどうした場合だったら効果があり、どういう場合には効果がないのかをまとめるのもいいのかなと思います。

あとは制度で縛るというところですね。先ほど話にあったような、ハード的な取り組みで担保できない場合に、より強力な対策をすとか、色んな観点から人の行動をマネジメントしていくことが求められていくのかなと思います。

(4) 心のバリアフリー促進啓発事業について

- 事務局 資料4 心のバリアフリー促進啓発事業についての説明（省略）
- 木口委員 もう少し違った取り組みも行ってほしいと思います。障害者の直接の声を聞ける場面を設定するとかですね。私は福祉事業のボランティア活動しているのですが、団体のメンバーの一人で視力の無い方が亡くなられたのですが、駅のホームでスマートフォンを使いながら歩いている人にぶつかって方向感覚を失い、転落してしまったのですが、そういった話を聞く場面を設けるとかもう少し積極的に取り組んでいただきたいと思います。
- 野口委員 ポスターとかポケットティッシュの配布だけでは今の時代に合っていないと思うのですね。もっとアイデアを出して積極的に取り組んでいただきたいと思います。例えば、学生等にアイデアを募集するというのもいいと思いますし、もう少しなにかできたらよいと思います。
- 事務局 その他の促進啓発についても何かございましたらご意見をいただき、考えさせていただきます。
- 吉田委員 ポスターとポケットティッシュの代わりに、「必要な方のために駐車しないでください」というのを地面に書くと駐車しづらくなると思います。ポケットティッシュの配布について、効果はあまりないと思います。
- 作山会長 ご意見としていただきます。
- 田中委員 心のバリアフリー促進啓発事業についてですが、当事者理解教育として、当事者がどのような障害をもって困っているのかというところを学校や公民館等で啓発促進できるように取り組みができればと思います。
- もう一点、パーキングパーミット制度については、自治体内の人に交付するもので、交付されていない自治体から利用する人もいるのでよくないのかなと思います。
- また、公共施設については、指定管理者が管理している施設は多くなってきている。桜区の総合記念体育館によく行くが、障害者用駐車場が出入口に近いの

で、子どもの迎え等で止めてしまう方がおり、必要な時に止められないことがあります。管理者の利用者に対する周知する意識が希薄だと感じますので、市で管理する施設や民間施設を含めて、周知を徹底してほしいと思います。

3 その他

- 吉田委員 バリアフリーの施設はたくさんできて、利用しやすくなってきているのですが、小学校や中学校はバリアフリーになっていないと感じています。中学校をたずねると入口が2階にあって、上がるのに苦労するしエレベーターもない状況です。
- 作山会長 小・中学校は健常者を想定して建てられていましたが、障害のある学生も一緒に学校で学ぶようになってきました。心のバリアフリーの考え方でみんなで助け合うといったところもあると思います。どこまで、いつのタイミングまでに小・中学校まで広げるのかといったところは過渡期にあるのかなと思います。
- 稲垣委員 今の小・中学校についてですが、教育施設ではありますが、災害時の避難場所にも指定されています。例えば、体育館に避難すると車いすの人だけ雨の時に屋根がないところを通らなければいけないところもあります。そういったところに対し、建築物の中で良好な避難生活を送れるようにするだとか、子どもたちだけでなく、他の学校の使い方もあるので、色んな議論の余地があると思います。
- 作山会長 福祉のまちづくりだけで考えると難しいが、縦割りに考えるのではなく、防災等、他の分野とタイアップすると解決できるところもあるのかもしれない。
- 稲垣委員 先ほど、交通政策課の説明の中で、自転車の通行空間整備をする、原則車道を通行するというのがありました。例えば、路上で自転車が爆走することにより、杖を突いている方がびっくりしたりすることが多発しているところで、どのくらいその人たちがハッピーになるのかとか福祉的な観点から自転車の通行空間整備をするとさいたま市は褒められるかなと思います。先ほどの心のバリアフリー促進啓発事業の中に、誘導ブロックの上に自転車を止めないでくださいというのがありましたが、他の部署では定期的に放置自転車を撤去していきますよね。例えば、放置駐輪対策の計画の中にある地域の誘導ブロックの上等を徹底的に撤去していくとか、そういった直接的には関係ない部署の計画にバリアフリーやユニバーサル視点を入れることで評価の幅も広がるし、市民に周知する機会になるのではないかと思います。
- 木口委員 ボランティアしている学校が以前は高等学校だったのが特別支援学校になっ

たのです。以前に務めていた中学校では、通常学級の生徒と一緒に活動する場面があり、地域の方も多少なりとも特別支援学級の生徒を知っているので、助け合うことができますが、特別支援学校の子たちはそういった場面がありません。一緒に生活していく場面を作ることがとても大事だと思います。

野口委員 バリアフリー法の改正により、小・中学校が特別特定建築物に追加されました。今後、新築、改修する小・中学校はバリアフリー化が進んでいきます。経緯としては、災害時に避難所となっていて、高齢者や障害者のかたが、東日本大震災をはじめ、とても不自由な思いをされてきました。小・中学校は特定多数の方が利用する施設だったのが、不特定多数の施設となりました。これから、期待できるかなと思っています。

4 閉会